

2004 年度第 3 回日本学生オリエンテーリング連盟幹事会 議事録

2005/01/10

公式ウェブサイト管理責任者

坂本 貴史

日時: 2005 年 1 月 9 日 18:00 ~ 23:40

場所: 小川ラドンセンター (埼玉県比企郡小川町)

出席者:

幹事・会計監査・事務機構員

氏名	役職	学校と学年	出席
堺 信夫	幹事長	大阪大学 4 年	
西田 剛志	副幹事長	東京大学 3 年	
岡 英樹	会計	東京工業大学 3 年	
花木 睦子	事業部長	千葉大学 4 年	
下村 佳奈	広報部長	岩手大学 4 年	×
築山 絢	事務局長	早稲田大学 3 年	
高橋 元気	北東地区代表幹事	東北大学 3 年	
北崎 茂	関東地区代表幹事	東京工業大学 3 年	
荒井 友香	北信越地区代表幹事	新潟大学 3 年	
櫻木 伸也	東海地区代表幹事	静岡大学 3 年	
峯村 綾香	関西地区代表幹事	奈良女子大学 3 年	
松村 小夜子	中九四地区代表幹事	山口大学 3 年	
保呂 毅	会計監査	京都大学 4 年	
漢那 理絵	会計監査	相模女子大学 3 年	
坂本 貴史	広報部・公式 Web 管理責任	筑波大学 4 年	

次年度幹事

氏名	役職	学校と学年	出席
袴田優美	会計	実践女子大学 2 年	
三矢麻以	事務局長	実践女子大学 2 年	
真名垣友樹	北東地区代表幹事	北海道大学 2 年	
本郷真弓	北信越地区代表幹事	金沢大学 2 年	×
福味亮伸	東海地区代表幹事	静岡大学 2 年	
倉田陽子	中九四地区代表幹事	山口大学 2 年	

次年度の幹事長・事業部長・広報部長・関東地区代表幹事・関西地区代表幹事は未定

理事

氏名	担当	出席
上田 泰正	全体統括	
木村 佳司	インカレロング	
広江 淳良	JOA	
土方 隆	インカレミドル・リレー、理事会会計	×
加賀屋 博文	技術委員会	×
大滝 民己	組織、会計	

TCWG

氏名	担当	出席
山口 尚宏	テレインコントロールワーキンググループ	

1:事務局の移転について

現在、関東学生オリエンテーリング連盟およびジェネシスマッピング会社と共同で使用している日本学生オリエンテーリング連盟事務所だが、狭い事が原因で業務が滞るため、2005年春までに移転予定。移転の費用はジェネシスマッピング社が全額持つ。その代わりに、学生の手伝いを必要としている。移転先候補:文京区内もしくは池袋。

今後、日本学連が JOA の下部組織になるような事になれば、同一の事務局になる可能性もある。

2:2004年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 ロングディスタンス競技部門 運営報告

【実行委員長】

資料「インカレ改革1年目(ロング)を振り返って ~将来の提言~」を参照。

2004年11月7日に無事終了した。一連のインカレ改革の初の試み。

運営団体は日本学連事業部を中心とした学生、大学クラブOBOG、愛知県オリエンテーリング協会と提携して行った。その結果、OBOGの負担減となったと思われる。

特色として、選手権上位者に2004年度全日本オリエンテーリング選手権大会のエリート権が与えられた。

東日本大会と共催した事から、全体の参加者は1300人あまり。学生の参加者数は報告書で示す。

報告書だが、早大OC大会で配布できるよう、1月中の締め切りとなる。また、ウェブサイト管理責任者から、インカレにおける運営者数、学生の参加者数の報告が求められた。

【事業部】

資料「事業部について」を参照のこと。

インカレに関係する業務のうち、申し込み、宿泊・輸送、広報・プログラム・報告書、式典、Web管理、運営報告書のうち、宿泊・輸送、広報、Web管理を行った。このうち、宿泊・輸送に関しては、現在のシ

日本学生オリエンテーリング連盟

システムはその複雑さと効果のほどが足りていないため、次回以降見直しが必要。式典に関しては、大学のOBOGに大いに力になっていただいた。報告書、運営報告書は現在製作中。

3:2004年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 ミドルディスタンス・リレー競技部門

【事業部】

現在、インカレに関する業務を各加盟校に分配中。

日程は、2005/03/11～13。開会式、後夜祭を例年通り行う予定。講習会も後夜祭の翌日より開催予定。

4:「総会の欠席に関する規則」の改正

資料「諸規則改正」「総会欠席規則改正」を参照のこと。

第2条第2項に追加。議案書の発行と同時に委任状の提出を受け付ける。

次回の第42回日本学連総会で諮る。

5:「インカレテレインコントロールに関する申し合わせ」の更新

資料「インカレテレインコントロールに関する申し合わせ」

【TCWG山口尚宏さん】

インカレで使用するテレイン案を以下のように決定。リザーブする。

年度	秋季（ロング）	春季（ミドル・リレー）
2004年度	愛知（三河高原） [愛知県協会共催]	日光（今市少年自然の家） [関東OBOG]
2005年度	愛知（三河高原） [日本学連から依頼された有志]	愛知（三河高原） [関東OBOG]
2006年度	長野（駒ヶ根） [ジェネシス共催]	矢板（未定） [関東OBOG]
2007年度	石川（加賀海岸）で調整中 [石川県協会共催]	未定

なお、今回より運営団体案も提出することにした。

加えて、2005年に愛知県で行われる世界選手権の併設イベントに関しては、イベントへの参加という形式でのリザーブテレインへの立ち入りを許可する。

1年前に日本学連総会で決定した、「インカレテレインコントロールに学生の意見を反映させる」活動に関して、まだ実行していなかった。そのため、学生の意見をくみ上げるしくみ設けたい。学生の意見がテレインコントロールを変えた前例として、2005年の秋のインカレロングの日程が、学生の意見を反映して8月から11月へ変わった事が挙げられた。

現在の北東地区代表幹事が幹事長の指名を受けて、学生から意見を集めることとなった。さしあ

日本学生オリエンテーリング連盟

って、次回の総会に合わせて学生の意見を集めることになった。

7:大会後援申請の承認

申請がなかったため、議事なし。

8:「日本学生オリエンテーリング連盟後援に関する規定」の改正

資料「日本学生オリエンテーリング連盟後援に関する規定の改正」「日本学生オリエンテーリング連盟後援に関する規定」を参照のこと。

6条の内容を、提出された書類の内容を踏まえて、幹事会が検討し、被後援事業主催者は、行事の内容が変化するたびに、最新の要綱を提出する義務を負うことを加えた。

また、日本学連関係の行事と重複した場合は原則として後援しない条項を2条に加える予定であった。しかし、その場合は幹事会が許可しなければよいということで話がまとまり、この条項は加えられないこととなった。

次回の日本学連総会で議決に諮る。

9:保険について

前回の幹事会で「従来の傷害賠償責任保険の契約を続行する」ことで話がまとまった。初期は事務局が担当していたが、諸事情によりできなくなってしまった。そのため、副幹事長にその担当が移ったが、勝手がわからず、現在も未契約となっていることが、事務局長、副幹事長それぞれから報告された。

現在はJOAの用意する傷害賠償責任保険を利用することで話がまとまっているため、JOAと日本学連の関係を先に整えたい旨が、上田理事長により示される。日本学連がJOAの下部組織となるのが実現するのは早くて2005年度内のため、JOAの用意する傷害賠償責任保険の契約が始まるのは早くて2006年度になる。その間の保険の扱いについてどうするか、議論された。また傷害賠償責任保険がない場合、傷害賠償責任保険によって生じた練習会の届出と報告の強制力を、どのようにして代替するのかについて話し合われた。

加えて上田理事長から、損害賠償保険が行使される状況が説明された。

さらに、2000年度に日光市・今市市で行われた春のインカレでの事例が以下のように報告された。クラシックの数日前にスタート枠を作成しが、翌日スタート枠が撤去されていた。スタート地区の地主に問い合わせた結果、撤去してしまったとの事。実行委員が謝罪へ訪れたところ、損害が生じた場合の賠償方法について返答を求められたため、上田理事が傷害賠償責任保険証書のコピーを提示して事なきを得た。

議論の結果、傷害賠償保険の有用性への疑問が生じたため、出席幹事で議決を取ったところ賛成多数で、JOAが傷害賠償責任保険を用意するまで、傷害賠償責任保険の契約を行わないことが決定された。

10: JOAの競技者登録について

資料「競技者登録についての要望書」を参照のこと。

事務局より、連絡のない都道府県協会に催促の手紙を郵送したことが報告された。加えて、JOAに日本学連としての要望書を郵送したことが報告された。要望書の内容は、来年度も同じ方法で日本学連事務局が競技者登録業務の代行を行うことは不可能であること、日本学連と都道府県協会とJOAの共有したい競技者の情報が一致していないこと、手続きの周知徹底の要望、共有情報のフォーマット化の要望、日本学連に学生分の競技者登録代金を委託する都道府県の絞込みを行う要望である。それに対してJOAより返信があり、JOAが中地徹底を行うこと、JOAが日本学連に対して届出を委託する協会を絞り込むこと、共通の書式の作成と申請窓口の一本化を継続的に検討することが明記されていた。検討するというのは、3月をめぐりに、JOAが各都道府県に対して、届出を委託する都道府県協会をリストアップするためである。

なお、以前2人の登録が行われておらず、登録費も振り込まれていない。この件に関しては、ひきつづき事務局長と広江理事が協議する。

11: 事務局機構再編

資料「事務局」を参照のこと

各地区学連の事務局を、日本学連の下部組織化するビジョンが、明確に示された。

12: 事業部の組織

資料「事業部について」

インカレの運営に関して、事業部の果たす役割が、明確に示された。また、インカレの運営業務に関して、事業部はまだそのノウハウを獲得していないため、それぞれの業務を徐々にできるようになり、その上で実行委員会と業務を分担するようなビジョンが示された。

13: 広報部の組織

資料「広報部について」

UOFJメーリングリストの管理が広報部長に引き継がれた。広報活動の拡充が明確に示された。広報部長の下に、いぶき発行とウェブサイト管理が置かれ、ウェブサイト管理は、コンピューターテクニクを持つ数名のIT担当者を束ね、各書類の処理に当たる。

また、木村理事から日本学連独自のドメインを取得する話が出されたが、公式ウェブサイトはまだ走り始めたばかりであること、ITスキルを持つスタッフが少ないことを理由に、今は見送る方針となった。

14: 普及部設立について

資料「普及部について」を参照のこと

普及部門として行うことが示された。すなわちJOA担当として、JOA普及教育委員会へオブザーバーを派遣する、新規加盟校へのアプローチを行う、インカレ開催地におけるオリエンテーリングの普及活

動、卒業生が社会人クラブへ移りやすいような環境づくり、高校クラブとの協力、支援などが示された。また、上田理事が担当理事となった。

15: 加盟料変更の検討

・加盟料変更

	加盟校登録費	準加盟登録費	合計
現行	3700円	1900円	165,300円
案1	3500円	2000円	159,000円
案2	3500円	1500円	152,500円

現在1,800万円の資産があるため、減収しても10世紀以上は持つ計算になる。

・普及部からの提出案件

直近1年間に加盟していない元加盟校、または新規の加盟校に対して初年度の加盟校登録費を免除する事が提案された。これに関して、複合大学クラブの登録費が、クラブ委員全員で支払われていること、以前廃止となったクラブが再び加盟する場合の対処などの問題が話し合われた。

この案件に関して、幹事会で議決が諮られた。10人中10人の賛成が得られ、承認された。

・他大学への開拓活動の経費援助に関して

普及部より提案された、普及活動の一環として、他大学への開拓活動を行ったクラブに対し、経費を援助する事が議論された。事後の報告書提出に応じて支給すること、経費の項目に「その他」を作らないこと、年度において締め切りを設けることが話し合われた。

次にこの案件に関して、幹事会で議決が諮られた。10人中8人の賛成がえられ、承認された。

16: 「日本学生オリエンテーリング連盟規約」の改正

資料「日本学生オリエンテーリング連盟規約」「日本学生オリエンテーリング連盟規約の改正」を参照のこと。

表現の訂正、誤字の訂正、新組織移行に関する変更点が盛り込まれた。

17: 「日本学生オリエンテーリング連盟幹事会及び事務機構に関する規則(案)」の制定について

資料「日本学生オリエンテーリング連盟幹事会および事務機構に関する規則(案)」を参照のこと。

日本学連の規約にこの内容を盛り込むのは問題があるため、新たに規則を設けることにした。3月の総会で承認に諮る。

18: 渉外整備委員会の設置について

資料「活動管理部門」を参照のこと

渉外整備を行う臨時委員会を設置する。詳細は資料のとおり。木村理事が担当理事となる。

日本学生オリエンテーリング連盟

まず、日本学生オリエンテーリング連盟規約第42条と第44条により、臨時委員会設置の承認が諮られた。10人中10人が承認したため、臨時委員会が設置された。

次に、日本学連会計へ予算の請求が行われた。

19: 練習会開催マニュアル

資料「練習会開催マニュアル」を参照のこと

マニュアルの内容を精査する。マニュアルは量が膨大のため、今回議論し切れなかった内容に関しては、後日メーリングリストを通じて議論を深めていく。

木村理事より、「変化のしやすい技術的な部分」と「本質的な部分」の分離が提案された。計算システムでいうチャックカードからEMIT社電子パンチングシステムの移行のような事情による。また、時計を日本標準時に合わせるアドバイスがされた。

3月の総会で公開できるよう、議論を深めていく。

20: コンプライアンスについて

日光地区におけるトラブルに対するペナルティーを定める。

日光地区利用にあたり、無届で活動を行った場合および不適切な活動・トラブルを起こすなどした場合には、ペナルティーを与える。ペナルティーは以下の場合に、該当校および該当校の加盟する地区学連には連帯責任として与えられる。

- ・地区学連に対して無届の場合
 - ・届出の有無に関係なく不適切な活動をした場合
- ペナルティーの内容として以下のものから決める。
- ・該当校の加盟停止(有期限)
 - ・該当校の属する学連から、E枠の一定数没収
 - ・加盟校のEクラス出走の停止
 - ・該当校のインカレ出場停止
 - ・該当校の日本学連からの退場

この案件に対し、トラブルを起こした大学クラブをきちんと指導していく仕組みが必要だとして、トラブルを起こした大学の日本学連からの撤退や加盟停止などの処分はなくなった。そして最終的には、トラブルを起こした大学の単年度における日本学生オリエンテーリング選手権大会への出場停止、そして前回総会で理事会が裁定機関となることが決定しているため、裁定機関がそのほかのペナルティーに関して決定することで話がまとまった。

21: 技術委員会報告

日本学生オリエンテーリング選手権大会ミドルディスタンス競技部門におけるシード選手を、理事会に上申した。

EMIT講習会が終了した。

2004年度第2回日本学連合宿が終了した。

各種大会に、イベントアドバイザーを派遣した。

地図調査講習会と第3回に本学連合宿を開催予定。参加者募集中ということをご各大学に連絡してほし

日本学生オリエンテーリング連盟

い。

22:理事会報告

2004年度インカレリレーにおける特例措置について

選手権クラスへの参加の機会を拡充するために一昨年度から行ってきたリレーにおける特例措置については、今年度は設けないこととするので注意されたい。

[特例措置]

チームとしてリレー選手権の部に参加しない加盟校等の選手に限り、同様にチームとしてリレー選手権に参加しない他の加盟校等の選手と特例チームを結成し、リレー選手権の部に参加することができる。

[本年度は設けない理由]

昨今の加盟員数の減少によりリレーに出場できない加盟校があり、その救済策として一昨年度の愛知インカレより設けてきたが、2年間で特例措置を適用して出場したチームが1校のみであること、さらに、今年度からは男子3人制に移行したこと等から、不要と判断したため。

23:地区学連活動報告

資料「地区学連活動報告」を参照のこと

24:各部局から

【事業部】

2004年度インカレミドル・リレーにおいて後夜祭と講習会を行う。
幹事には活動報告書への原稿執筆を考えておいてもらいたい。

【広報部】

公式ウェブサイト随時更新中。

いぶき発行遅れ

【事務局】

保険契約のための基礎数値を作成

2004年度の日本学連名簿を作成・発行。

25:その他

1. 世界大学オリエンテーリング選手権大会(以下ユニバー)における選手への支援に関して

日本学連は、オリエンテーリングに関して、日本における学生を統括する唯一の組織である。そのため、ユニバーへ日本代表を派遣することは責務である。また、日本学連がJOA下部組織化することが現在進行中であるが、もしそうなった場合は選手派遣に関してJOAと協議をもたなければならない。

2. 後任未定幹事に関して

日本学生オリエンテーリング連盟

幹事長、事業部長、広報部長、関東学連代表幹事、関西学連代表幹事、副幹事長について後任が未定。このうち、幹事長は高校からの経験者を求めて、各組織に打診中である。

3. 来年度予算立案に関して疑問点

広報部 15万円の使い道 紙媒体のいぶき発行のため
事業部 20万円の使い道 後夜祭・講習会開催のため
理事会 15万円の使い道 理事会交通費など

26: 次回幹事会の日程について

3/13 後夜祭会場付近を予定。後夜祭に参加できるよう、行いたい。

以上